

議 事 要 旨

名 称	第4回松山市車両基地跡地広域交流拠点施設整備検討会
開催日時	令和7年4月30日(水) 15:00～16:30
開催場所	松山市役所別館6階 第3・第4委員会室(オンライン併用)
出席者	出席者名簿のとおり(4ページに掲載)
次 第	1. 開会 2. 議事 (1)第4回ワークショップ報告 (2)基本計画素案について 3. 閉会
議事内容	(1)第4回ワークショップ報告 【事務局】(資料1 第4回のワークショップの内容と意見を説明)。 ※質疑等なし (2)基本計画素案について 【事務局】 ・基本計画素案の策定に当たっては、具体的もしくは確定的な表現を避け、ある程度柔軟性を持たせた構成としている。各委員から頂いた意見については、基本方針などに記載させていただいたものと、今後、サウンディング調査や周辺エリア全体で検討していくものをまとめている。 (資料2 基本計画素案の第1章から第2章までについて説明)。 ⇒各委員からの主なご意見・ご助言 ・器で勝負するのではなく、オンリーワンとして、全国に数点しかない使い方ができるような工夫をすることが重要である。 ・市、利用団体、市民、JR四国などが、それぞれの立場で松山の将来、愛媛の将来という大きい観点で頑張っているということが、翻って愛媛、松山の魅力に繋がると考える。 ・松山らしさという視点は重要であるが、どのように具現化するかが難しくもある。建築の意匠について、および、松山はおもてなしのまちであるため、群を抜いて利用しやすいという視点が必要であると考え。 ・先進的な取組は日進月歩の世界であるため、「一旦整備して終わり」ということではなく、アップデートし続けるような施設のスタンスというものが選ばれる施設となるのではないかと。 ・8頁の整備方針について、「市民会館代替機能の検討」の中で、市民ワークショップで出された意見について引き継ぐということを記載いただいているが、関係団体からのヒアリングについても同様に引き継いで欲しい。 ・また、できるだけ早く市民会館代替機能の検討を始めていることを市民にも伝わっていくようにして欲しい。

- ・基本計画全体を通して、ホール機能が外れたこともあり、基本構想にあった文化創造機能の記載が薄まっているように感じる。ストリートやロビーでも文化芸術は創造活動をすることができるため、新施設の整備方針の中で、文化創造を育むような交流施設を造る、というような記載を検討して欲しい。
- ・屋外空間をどのように活用していくかは重要なポイントであるため、屋外空間の機能を載せてもらえるといい。
- ・基本計画は、サウンディングをして公募要領を作っていくときの基本となるものと考えており、今後詰めていく必要があると感じる点が2点ある。
1つ目は、敷地周辺との関係をどうするか。周りがどうなるかということ在必ず企業は確認するため、「周りとの関係はこのようにしてください」という言及をする必要がある。
2つ目は、運営の点である。利用が想定される各種団体の利用頻度と要望についてしっかりとヒアリングし、基本計画に入らなくても、サウンディング調査結果では提示して、今後詰めていってもらいたい。
- ・事業方針について、松山らしさの発信や、楽しいアリーナの演出、安心といった項目について、どこまで事業者が行わなければいけないのか、役割分担を明確にしておく必要がある。
- ・松山らしさは「お接待」ではないか。簡単ではないが、来た人にどうすればいいか。実例と例題があればいいのではないか。
- ・整備方針について、一番大切なのは地域経済・まちづくりに寄与することであり、そのために交流人口を増やす、そのためにプロスポーツやイベントをするという順序になる。アリーナを造る目的は、そこでイベントを開催するというよりは、どういうエリア開発をしていくか、どういうまちづくりをしていくかである。
- ・JR 松山駅という交通結節点の開発ということで、100年後の松山はどうなっているのかという未来志向で考え、今の松山らしさも大切にしつつ、新たなまちをどのようにつくっていくかが非常に大切である。
- ・周辺地域は何ができるかなど、まちの想像ができると、そこにリンクさせることで、相乗効果により収益をあげる施設を提案しやすくなる。
- ・JR 松山駅の東と西の地域のまちづくりは重要である。すぐに取りかかるのは無理だとしても、アリーナは数十年間使用することができるため、その期間を見越してまちづくりを検討していくことができるといい。
- ・長くもたせる公共施設として、脱炭素を先導させる記載をしてもらえるといい。

【事務局】(資料2 基本計画素案の第3章から第5章までについて説明)。

⇒各委員の主なご意見・ご助言

- ・対象敷地はこの事業地だけとなるか、周辺敷地を含めるのか。また容積率や高さ・用途制限などをどのように設定するのか。本施設単体だと応募者の確保がなかなか難しいと考えるが、周辺条件については、ヒアリングする

	だけでなく、松山市としてのまちづくりの方針を定めていかなければいけない。 ・事業手法は大切であり、財政負担を減らすために民間事業者と一緒にやるということから議論を出発するのではなく、民間事業者のノウハウを活かしていいものをつくっていくということが重要である。 ・サウンディングの中で MICE についても表記いただきたい。空間の利用として、屋上で GALA パーティを行うなどの活用もできると思うため、そのような民間アイデアを頂けるような書き込みをして欲しい。 ・松山らしさについて、JR 松山駅はまちの顔の部分になる。整備計画をしていく中で、新たな松山らしさという点について、景観についても言及し、新しく発信していくことを検討の中に入れて欲しい。 ・興行利用や公的利用を含め、利用枠のバランスについて、民間利用者は気になる点であるため整理して欲しい。 ・各都市では経済団体を中心に地元企業が勉強会をしてチームを組成し、事業に主体的に取り組む動きが出ている。このような動きが当地でも出るといい。12頁(2)の記載がすごく大事だと考えており、この点が、このアリーナが成功するか失敗するかのカギであり、是非魅力的なコンテンツを地域一体となって提供する動きが出るといい。 ・大規模集客施設については、ばっと人が集まってばっと帰って行く、ということだと地元にお金が落ちない。5,000 人がまちに流れていく仕組みを設けて、初めてまちの活性化に繋がり、お金が落ちることになると考えている。あえて観客には 10～15 分歩いてもらい、そこを魅力的なまちにしていけることがとても大切であり、この施設まで来る交通手段があればいいのではないかということも考えられる。駐車場はもてなすという意味で最低限必要ではあるが、5,000 人をどうやって周遊・滞留させるかという点を含めて考える必要がある。
--	--

松山市車両基地跡地広域交流拠点施設整備検討会 出席者名簿

(敬称略)

所属・役職			氏名
1	有識者	愛媛大学社会共創学部 学部長	松村 暢彦
2		大阪公立大学 客員教授	山本 康友
3		埼玉大学大学院 理工学研究科 環境社会基盤部門 教授	菊池 雅彦
4		AC Bright Lab 合同会社 代表	千葉 昭浩
5	関係団体	松山市文化協会 会長	土居 英雄
6		公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団 理事長	本田 元広
7		公益財団法人 愛媛県スポーツ協会 常務理事	豊島 吉博
8		松山商工会議所 事務局長 ※代理出席	福井 琴樹
9		四国旅客鉄道株式会社 愛媛企画部 部長	窪 仁志

オブザーバー	愛媛経済同友会 幹事 ※代理出席	正岡 尚起
	NPO 法人シアターネットワークえひめ 理事	郡司島 宏美
	公益財団法人 松山観光コンベンション協会 専務理事	家串 正治
	社会福祉法人 松山市社会福祉事業団 常務理事	矢野 博朗